

オレンジガーデニングプロジェクト



オレンジガーデニングプロジェクトとは、「認知症になっても暮らしやすいまちをみんなで創っていきましょう！」という思いを共有しながら、認知症のテーマカラーであるオレンジ色の花を咲かせるプロジェクトです。

認知症になっても暮らしやすいまちづくり



人権研究会の生徒とともに

地域の方から草取りや根のほぐし方や花の配置についてを教わりながら、中学生は積極的に質問したり、話しかけたりして、終始楽しそうに会話しながらの活動でした。雑草に覆われていた花壇が、マリゴールドやポーチュカ、ガザニアでオレンジに彩られました。「この雑草一緒だと思う?」「コガネムシの幼虫は根っこを全部食べちゃうから除けます」「ミズちゃんはいいやだから置いておいて」など、軽快なテンポで、生徒とともに鉢植えのままになっていたマーガレットを隣の花壇に植え替えました。根が鉢からはみ出すほどになっていましたが、広々とした土に植えることができました。

生徒は、「思っていたより大変でした」「日常的にはできないけど、できて感動した」「あんまりやったことがないから良い体験になった」「家庭菜園より学校の方が大きくてみんなのためという感じがよかった」など感想を述べていました。

この活動をきっかけに、「認知症について考え、周囲の人と話したり、認知症の人と一緒に花を育てたり、人・地域・社会との繋がりを持つことで、認知症になっても自分らしく暮らせるまちをみんなで創っていきましょう」とこのプロジェクトで呼びかけています。地域の方から教えていただき、協働する中で、生徒は「自分にできる社会貢献」を考えるよい機会となりました。